

自由な発想で表現力育む

二日市中 筑山中

プロ演劇人が「出前授業」

特別支援学級
適応指導教室

筑紫野市の二日市中と筑山中で、特別支援学級や校内適応指導教室の生徒たちを対象にプロの演劇人が講師を務める演劇ワークショップが開かれている。今月中に二日市中で4回、筑山中で2回実施するが、回を重ねるごとに生徒たちも慣れて少しずつ変化が表れている。両中学はそれぞれ作品を作り、今月末から来月上旬に校内で発表をする予定だ。

〔山崎あずさ〕



演劇ワークショップで、体を使って漢字・文字を表現する生徒と教師ら

作品仕上げ校内で発表へ

ワークショップは市民団体「ふくおか教育を考える会協議会」などがつくる「博多の演劇人の、プロの技で、子ども表現力を育む協議体」が主催。1人や2人、または大勢で連携して体を使った動きに挑戦したり、グループで1場面を想像して再現したりする。取り組みを通じて、生徒たちが自発的に考える力や想像力、異なる価値観を持つ人たちとの合意形成力を育むことを目的にしている。

二日市中での2回目には、生徒と教師計約20人が参加した。「三つのグループに分かれて病院のある場面を写真として再現してみて下さい」。講師の大福悟さん(51)が課題を出す。「椅子を三つ持ってくるから、そこに寝てみたら」「私は助手になるのか」。生徒と教師が交わり合う各グループが、限られた時間

で医者や患者、看護師などになりきり、驚いたり真剣な表情などを浮かべたりして静止すると、三つの写真が完成した。

特別支援学級の生徒は初回から自由な発想でアイデアを出した。久田麻子教諭(47)は「演劇に興味を持ち、自由に発想が広がっているように感じる」と手応えを語った。初回は様子を見守ることが多かった校内適応指導教室の生徒たちも2回目は講師が声を掛けると発言し始めた。

ふくおか教育を考える会協議会の多田育美代表(49)は「楽しみながらコミュニケーション力を身に着ける教育が、福岡では広がっていない。子どもたちが能動的に学べる場を作る手伝いができたら」。大福さんは「人は経験を基に想像力を発揮することができる。今回のワークショップが将来、何かに直面した時に役立ってほしい」と話